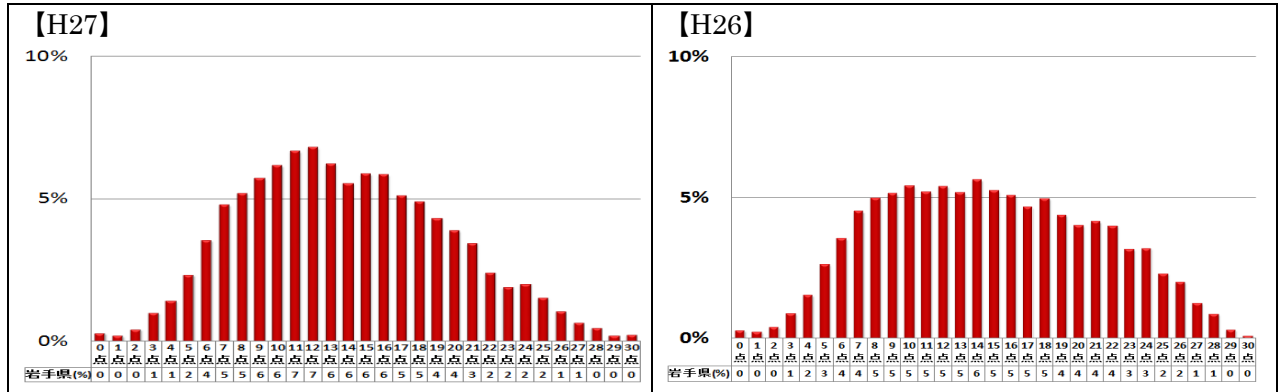


授業改善の手引 中学校第 2 学年社会

1 調査結果

(1) 分布状況



○ 問題数は昨年度と同じで、正答数の最頻値は 12 問、平均正答数は 14 問です。昨年度の分布と比較して、山の左側が高くなっています。また、正答数 9～13 問の層が増えています。

(正答数の最頻値：該当する生徒数の最も多い正答数)

(2) 領域等の正答率

領域等		正答率 () は H26, () は H25	観点	正答率 () は H26, () は H25
地理的分野	(15 問)	46% (45) (51)	社会的な思考・判断・表現 (8 問)	50% (46) (55)
歴史的分野	(15 問)	47% (54) (57)	観察・資料活用 of 技能 (8 問)	47% (49) (57)
活用	(4 問)	47% (38) (43)	社会的な事象についての知識・理解 (14 問)	44% (51) (51)

(3) 結果概要

- 「社会的な思考・判断・表現」の正答率は、昨年度の正答率を 4 ポイント上回っています。特に、社会的な事象について判断する問題や学習を進める上で適切な課題を設定する問題で改善傾向が見られました。
- 「観察・資料活用 of 技能」については、昨年度の正答率を 2 ポイント下回っています。地図や年表の活用等、習得すべき技能の定着が不十分なところが見られます。
- 「社会的な事象についての知識・理解」の正答率は、昨年度の正答率を 7 ポイント下回っています。地理的分野・歴史的分野ともに、基本的な用語や名称、社会的な事象の内容の理解の定着に課題が見られました。
- 活用に関する問題（小問 7, 14, 23, 26）の正答率は 47% です。複数資料を読み取り社会的な事象の特色や背景を説明する問題や学習を進める上で適切な課題を設定する問題で正答率が上がっています。

(4) 経年比較問題の状況 (○改善, ◇改善傾向, ●課題が継続, ▲は前回調査との比較マウスを表す)

小問 No	正答率	比較	小問 No	正答率	比較	小問 No	正答率	比較
◇ 3	38	23	● 11	49	▲ 7	◇ 22	53	10
◇ 7	44	4	◇ 14	40	9	◇ 23	69	17
● 10	30	▲ 12	● 18	43	▲ 9	◇ 26	36	7

◇ 小問 3, 7, 14, 22, 23, 26 は課題の改善傾向が見られましたが、今後も注視が必要です。小問 3 「様々な図法の地図の読み取り」や小問 23 「適切な課題の判断」の問題については、指導の成果が出ています。

● 小問 10 「経済水域」の問題をはじめ、上記以外の小問については、依然として課題が継続している状況です。「時差の読み取り」「歴史上の人物」についても意識して指導を継続していく必要があります。

(5) 小問別正答率

問題番号				調査問題のねらい	学習指導要領との関連	主な観点	備考	正答率	選 択 No. (%)							
大問	中問	小問	通し番号						1	2	3	4	5	6	0	
									選択	選択	選択	選択	誤答	正答	無解答	
1	(1)	1		六大陸と三大洋の名称と位置を理解している。	地理(1)ア	知		59					39	59	1	
	(2)	2		経度についての理解を基に、地図を読み取ることができる。	地理(1)ア	技		23					73	23	4	
	(3)	3		様々な図法の地図を読み取ることができる。	地理(1)ア	技	経年	38	38	11	23	6	13			7
2	(1)	①	4	世界各地の自然環境の理解を基に、資料を読み取ることができる。	地理(1)イ	技		42	42	26	18	10	3			2
	(1)	②	5	世界各地の伝統的な住居について、自然環境との関連から判断することができる。	地理(1)イ	思		59	14	7	59	13	5			1
	(2)	6		世界の主な宗教の分布について判断することができる。	地理(1)イ	思		45	45	17	25	7	4			2
3	(1)	7		小麦に関する複数の資料を読み取り、生産量・自給率・人口の関係から特色や背景を考察し、説明することができる。	地理(1)ウ (ア).(イ).(エ)	思	経年活用	44					33	44	24	
	(2)	8		E.Uの経済格差についての理解を基に、複数の資料を読み取ることができる。	地理(1)ウ(イ)	技		62	7	20	9	62	0			2
4	(1)	9		日本の国土の位置、地域区分、都道府県の名称と位置、都道府県庁所在地名について理解している。	地理(2)ア	知		41	17	29	41	11	0			1
	(2)	10		日本の経済水域について理解している。	地理(2)ア	知	経年	30	54	30	8	8	0			1
	(3)	11		経度差から時差を読み取ることができる。	地理(2)ア	技	経年	48	18	15	17	48	0			2
5	(1)	12		日本の農業の特色について理解している。	地理(2)イ(ウ)	知		55	18	12	55	11	2			2
	(2)	13		少子高齢化について理解している。	地理(2)イ(イ)	知		69					28	69	3	
	(3)	14		日本の発電所に関する複数の資料を読み取り、分布の特色を考察し、条件をふまえて説明することができる。	地理(2)イ(ウ)	思	経年活用	40					40	40	21	
6	(1)	15		古代までの中国の国名と我が国との関係を理解している。	歴史(2)ア～ウ	知		34	17	35	13	34	1			1
	(2)	16		古代の我が国の遺物について理解している。	歴史(2)ア	知		67	16	67	6	10	0			1
	(3)	17		弥生時代の生活の様子について判断することができる。	歴史(2)ア	思		57	2	14	26	57	0			1
	(4)	18		聖武天皇の政治について理解している。	歴史(2)イ	知	経年	43					32	43	25	
7	(1)	19		鎌倉時代の文化について理解している。	歴史(3)イ	知		51	9	51	10	26	3			1
	(2)	20		室町時代の都市における自治的な仕組みの成立について理解している。	歴史(3)イ	知		32	32	19	31	17	0			1
	(3)	21		平清盛の業績について理解している。	歴史(3)ア	知		32	26	32	22	17	0			2
	(4)	22		西暦から、その年が何世紀であるかを読み取ることができる。	歴史(1)ア	技	経年	53					39	53	9	
8	(1)	23		江戸時代の鎖国についての資料や会話文から、学習を進める上で適切な課題を判断することができる。	歴史(4)イ	思	経年活用	69	8	11	69	10	0			1
	(2)	24		豊臣秀吉による検地の影響について理解している。	歴史(4)ア	知		15	12	15	33	38	0			2
	(3)	25		徳川吉宗による享保の改革について理解している。	歴史(4)エ	知		54	54	18	16	9	0			2
	(4)	26		安土桃山時代から江戸時代にかけての米の収穫量に関する複数の資料を読み取り、その背景について考察し、説明することができる。	歴史(4)ウ	思	経年活用	36					46	36	18	
9	(1)	27		日本の世界文化遺産についての理解を基に、資料を読み取ることができる。	歴史(2)イ.(3)ア.(4)ア	技		56	16	11	56	14	0			2
	(2)	28		世界の気候区分について理解している。	地理(1)イ	知		32	17	44	5	32	1			2
	(3)	29		桃山文化についての理解を基に、資料を判断することができる。	歴史(4)ア	思		47	47	16	15	19	0			2
	(4)	30		おおまかな歴史の流れについての理解を基に、資料を読み取ることができる。	歴史(2)イ.(3)ア.(4)ア	技		53	24	53	13	8	0			2
全体正答率								46								

2 指導のポイント

(1) 基礎的・基本的な知識の確実な定着を図りましょう。

ア 問題の概要【経年比較問題 ④ (2)・⑥ (4)】

④ (2) 日本の「経済水域」について理解している。	正答率 30%
⑥ (2) 古代までの「中国の国名と我が国との関係」を理解している。	正答率 34%
⑥ (4) 「聖武天皇」の政治について理解している。	正答率 43%

イ 誤答分析

「経済水域」の範囲を指摘する問題では、依然約7割の生徒が誤答、うち8割近くの生徒が「経済水域は領海を含む」と捉えており、理解が不十分であることが読み取れます。また、古代までの我が国と関係の深い「中国の国名」を選択する問題では、約7割の生徒が誤答となっています。我が国の歴史の流れを世界の動きと関連付けた学習の充実が一層求められます。さらに、「聖武天皇」について、その業績を手がかりに人物名を答える問題では、3割以上が誤答、無解答も約3割にのぼっています。小学校段階での学習内容について十分に把握し、その学習成果を有効に活用して指導していくことが必要です。

ウ 指導上の留意点

- 第1学年での学習内容に当たる基礎的・基本的な知識・理解の定着状況に課題が見られます。
「社会や生活との関わりを意識した課題解決的な学習」の充実を図るとともに、特に歴史的分野については、「時代の特色や転換の様子について説明する活動」や各単元の始めにそれまでに学習した「歴史の大きな流れを振り返る学習」を継続して取り入れ、学習を進めていきましょう。
- 「社会科の基本的な用語や人物、時代の特色についての学習」では、表面的・機械的な暗記にとどまらないように写真や地図、年表といった資料を用いて、社会的事象との関連付けを図りながら、生徒同士のペアで説明し合う活動や文章形式で問うなどの活動を取り入れ、各分野の学習の基礎を確実に定着させましょう。
<学習活動例>
【例1】「経済水域と言われるのはどのような水域ですか。また、その範囲をノートに図で表してみましょ。」
【例2】「8世紀の中頃の日本はどのような様子でしたか。また、そのころ聖武天皇は、どのような政治を行いましたか。隣の人に説明してみましょ。」

(2) 地理や歴史の学習の基本となる地図や表・グラフ及び年表の見方を理解させるとともに、積極的な活用を通して、技能の向上を図りましょう。

ア 問題の概要【経年比較問題 ① (3)・④ (3)・⑦ (4)】

① (3) 様々な図法の地図を読み取ることができる。	正答率 38%
② (1) ①世界各地の自然環境の理解を基に、資料を読み取ることができる。	正答率 42%
④ (3) 経度差から時差を読み取ることができる。	正答率 48%
⑦ (4) 西暦から、その年が何世紀であるかを読み取ることができる。	正答率 53%

イ 誤答分析

正距方位図法で示された世界地図を活用し、距離が等しい都市どうしを読み取る問題で、6割以上の生徒が誤答となっています。また、2地点間の経度の違いから時差を見いだす問題では、5割以上の生徒が誤答となっています。このことから、資料中のデータを分析し比較・考察しながら読み取る学習が不足していると考えられます。また、世界各地の自然環境の理解を基に、適した雨温図を選択する問題では、約6割の生徒が誤答となっています。地図を有効に活用して地理的事象を説明するなど、現行の学習指導要領で重視されている地図を活用した学習活動が不足しているものと思われます。

ウ 指導上の留意点

- 地図や地球儀、統計やグラフ、写真や年表などを積極的に活用する学習を重視しましょう。
<学習活動例>
【例1】「図1（メルカトル図法等）に示されたロンドン、ケープタウン、シドニー、ブエノスアイレスのうち、日本に最も近いのはどの都市ですか。図2（正距方位図法）を参考に考えてみましょう。」
【例2】「地図中に示された熱帯・乾燥帯・温帯・寒帯・冷帯は、それぞれ主に世界のどの地域に分布し、どのような特色をもつ気候区分でしょうか。ペア同士で説明し合いましょ。」
【例3】「日本は現在11月18日の午前10時です。西経90°を標準時子午線とするメキシコシティーは何月何日の何時でしょうか。」
・数学科の第1学年における「正負の数」で学習したことを活用した、時差の計算方法を積極的に取り入れていきましょう。その際、東半球どうし、西半球どうしのみでなく、従前からの課題である西半球にある諸都市と東半球にある日本との時差についての学習を繰り返して取り扱いましょ。
【例4】「元寇とはどのような出来事ですか。また、それはいつ（西暦何年・何世紀・何時代）の出来事ですか。」
・歴史的事象の学習に当たり、年代の表し方や時代区分の学習を継続的・計画的に行いましょ。

(3) 生徒自身が自力で資料を読み取り、全体で検討する活動を授業の中に位置付けるなど、複数の資料を読み取り説明する学習の充実により、表現力の向上を目指しましょう。

ア 問題の概要【経年比較・活用問題 ③ (1) ⑤ (3)】

- ③ (1) 小麦に関する複数の資料を読み取り、生産量・自給率・人口の関係から特色や背景を考察し、説明することができる。 正答率 44%
- ⑤ (3) 日本の発電所に関する複数の資料を読み取り、分布の特色を考察し、条件をふまえて説明することができる。 正答率 40%

昨年度までと比較して、無解答率が減少するなど改善傾向にあり、活用問題に関して一定の成果が見られます。しかし、「～だから～となっている」「～するために～している」など、因果関係を明らかにした文脈で表現するという点については引き続き課題があります。授業においては、教師は明確な発問を心がけ、生徒も根拠を明確にして文末まではっきりと述べることができるよう指導していきましょう。

イ 誤答分析

《 ③ (1)について 》

① 題意を理解しないで解答している例が多く見られます。

【問題文】資料Aから、小麦に関して中国とインドには共通の特色があることが分かります。その他の国々と比べてどのような特色があるか、生産量と自給率の両方にふれて書きなさい。

(誤答例1)「生産量は中国が多いが、自給率はインドが高い。」 → 共通の特色という題意に正対していません。

(誤答例2)「中国とインドは、生産量、自給率ともに高い」 → 自給率について資料Aの他の国と比較できていません。

【問題文】また、そのような特色が見られる理由を、資料Bから読み取って書きなさい。

(誤答例)「人口が多いから、小麦をたくさん作ることができる。」

→ 「生産量が多い割には、自給率が低い」という特色の理由になっていません。

《 ⑤ (3)について 》

① 1つの資料から分かることのみを解答しています。

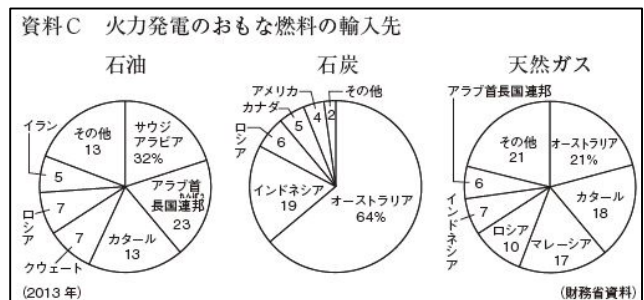
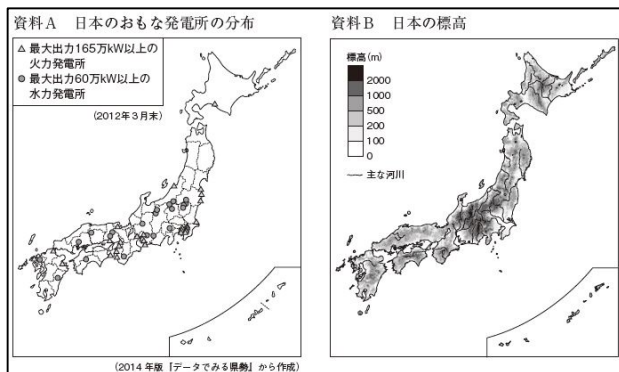
- (誤答例) 資料Aから ・「海側に分布している。」「都市の近くに集中している。」
 資料Bから ・「標高の低いところに分布している。」
 資料Cから ・「燃料をサウジアラビアやオーストラリアから輸入している。」

葵さんの文

日本の水力発電所は、発電に必要なダムをつくるために、川の上流である標高の高い山地に多く分布している。

② 複数資料の関連付けが不十分なまま解答しています。

(誤答例) 「火力発電所は、標高の低い海沿いにある。天然ガスや石炭はオーストラリアから、石油はサウジアラビアから輸入している。」 → なぜ、海沿いに立地しているのかが説明されていません。



ウ 指導上の留意点 (授業で意識したい学習活動)

- ① 既習の用語や知識を、授業の中で繰り返し活用させましょう。(因果関係を正しい文脈の中で説明させながら、用語や知識を身に付けさせる。)
- ② 何が分かればよいかや、必要な資料は何かを考えさせましょう。(予想を生かして、学習の見通しをもたせる。)
- ③ 資料から分かること、考えられることを説明させましょう。
- ④ 複数の資料を比較・関連付け、考察したことを交流させましょう。(「共通点をあげると～」「～だから～となっている」「つまり～」)
- ⑤ 学習課題に対するまとめを自分の言葉で表現させるなど、学習の振り返りを大切に、本時の学びを自覚化させましょう。

【教師のセルフチェック】

- 生徒の問題意識に沿った必要感のある発問になっているか。
- 生徒に文末まで答えさせているか。
- 全ての生徒に資料の読み取りや解釈をする時間を確保し、適切な評価・助言をしているか。
- 一部の生徒による発言だけで学習が進んでいないか。
- 生徒が考えるべきところを教師が説明していないか。
- 評価規準を具体的な生徒の姿を想定して設定しているか。